

## 令和4年度 学校教育自己診断のまとめ

回答率は、保護者 79.1% (昨年度 54.0% - 昨年度 54.7%)、教職員 92.8% (昨年度 94.2% - 昨年度 91.2%) であった。

保護者の回答率が昨年比 25.1 ポイントと大幅に上昇したが、過去 5 年間をみても、50% 台での推移であったことを考えると飛躍的な上昇である。

項目全般にわたって、28 項目中 24 項目が 90% 以上の肯定的意見であり、昨年度の 26 項目中 21 項目が 90% 以上の肯定的意見と比較すると 若干比率が高くなっている。

項目別にみると、学習指導・学校に対する項目については、「お子さんの様子から、学校へ行くことを楽しみにしていると感じられる」「お子さんは、授業がわかりやすく楽しいと感じている」に関して、肯定的意見はそれぞれ 97% (昨年度 91%、92%) であり、昨年比 5 ポイント上昇している。

「お子さんの日常生活について学校との意思疎通は十分できている」は 96% (昨年度 91%) と 5 ポイント上昇している。

「教科の学習について『個別の指導計画』の内容に満足している」「自立活動について『個別の指導計画』の内容に満足している」に関しても 96% (昨年度 93%)、98% (昨年度 94%) と 3 ポイント以上上昇している。

しかしながら、「学校は肢体不自由児教育の専門性を備えている」に関しては、91% (昨年度 98%) と 90% 以上の高評価ではあるものの、昨年比 7 ポイントの下降であった。

以上を分析すると、学校に対する教育内容や指導内容に対する信頼や評価が高い一方で、肢体不自由児教育の専門性の低下を懸念していることが見てとれる。これは本校の課題であり、教職員のいっそうの専門性向上に努める必要がある。

また、「学校は、地域の学校との『交流および共同学習』を積極的に取り組んでいる」「授業参観や学校行事に参加したことがある」に関してはそれぞれ 92% (昨年度 81%)、100% (昨年度 96%) と 11 ポイント、4 ポイントの上昇がみられ、コロナ禍においても以前のような学校教育活動に戻りつつあることが回答に表れている。

次に、進路指導・キャリア教育について、「学校は、小学部から発達段階に 応じた生きる力をつける教育 (キャリア教育) の推進ができている」に関しては 98% (昨年度 94%)、「学校は将来の希望や職業などについて適切な指導を行っている」は 87% (昨年度 81%) とそれぞれ 4 ポイント、6 ポイントと上昇している。このことから、学校全体のキャリア教育の推進をさらに進めながら、子どもたち一人ひとりの丁寧な進路指導を実践する必要がある。

安全・安心な学校づくりについては、「学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」が 98% (昨年度 97%、1 ポイント上昇)「学校は、児童生徒の健康・安全について、適切に対処している」が 94% (昨年度 95%、1 ポイント下降)「学校は、子どもに生命を大切にす心や社会ルールを守る態度を養おうとしている」が 95% (昨年度 94%、1 ポイント上昇)「学校は、日常の教育活動において、子どもの人権を十分に尊重している」が 97% (昨年度 99%、2 ポイント下降) であった。いずれも 90% 以上の高評価ではあるが、引き続き安全・安心な学校づくりを進めていきたい。

また、今年度のアンケートでは、新たに ICT の活用や防災に関する項目を追加しており、「学校は iPad などの情報機器を活用している」が 79%、「学校は、防災に対する意識を高める取り組みを行っている」が 96% であった。学校運営等についての項目では、「校長は、積極的に教育

情報を発信し、学校経営を円滑に行っている」が 92% (昨年度 91%、1ポイント上昇)、「学校ホームページを見たことがある」は 84% (昨年度 88%、4ポイント下降)であった。今年度はHP充実に学校ブログの積極的更新を行い、保護者からは好評をいただいているが、さらにコンテンツの充実を図っていきたいと考える。